

アナログ立県・群馬

振興の波盛り上がる

群馬県でアナログ技術振興の動きが盛り上がりを見せている。「群馬県アナログ技術立県」を
 かけ声に、数年前から産学官、民間非営
 利団体（NPO）が、それぞれの立場で
 取り組みを開始。各組織が相互に連携
 し、アナログ技術の高度化と人材育成に
 取り組んでいる。その結果、国の助成金
 を得る大規模プロジェクトが立ち上がる
 など成果が表れてきた。

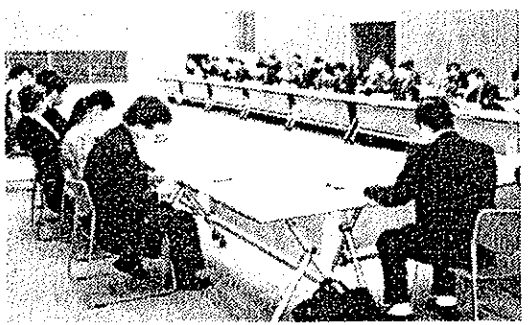
研究開発

基本性能握る

デジタル製品の基本性能を左右し、高付加価値製品開発の力を握るとされるアナログ技術。産学官連携コンソーシアムの2団体が、国の公募型

事業に採択されプロシエクトを開始するなど、群馬県内で研究開発が活発化している。

【アナログ技術】 デジタル信号を実際の映像や音に変える技術。次世代の情報通信・映像機器などのシステム開発の核となり、高周波化や省電力化に欠かせない。プリント基板への実装部品同士をどの程度離すかなど、経験に基づく要素が大きいとされている。



アナログ関連企業の出会いの場でもある「群馬県アナログ関連企業連絡協議会」の存在が大きい。群馬県内には三洋電機、ルネサステクノロジなどの大企業がはじめ、アナログ関連の中小・ベンチャー企業の集積がある。こうしたアナログ関連企業の連携を強化する狙いで、同協議会は03年11月に発足した。

現在は58社がメンバーとなり、アナログ技術に
 なるのは、「群馬県アナログ関連企業連絡協議会」の存在が大きい。群馬県内には三洋電機、ルネサステクノロジなどの大企業がはじめ、アナログ関連の中小・ベンチャー企業の集積がある。こうしたアナログ関連企業の連携を強化する狙いで、同協議会は03年11月に発足した。

現在は58社がメンバーとなり、アナログ技術に

大手・V B 企業が集積 連合で先端研究

方式に対して共通インターフェースを持つ汎用型無線通信モデムの開発に取り組んでいる。この取り組みは経済産業省の04年度地域新生コンソーシアム研究開発事業に採択された。

また日本サーボは、群馬大学、日立製作所など研究開発が活発化している。

協議会の存在
 コンソーシアムによる
 研究開発が活発化している。

関する課題を共有化し、今後の振興策を検討している。このメンバーに群馬大学が加わり、コンソーシアムが誕生する下地

県が側面支援

国の公募型事業への採択を狙う取り組みは、県が側面から支援した。担当者がメンバー企業を個別に訪問し、各企業の開発テーマをあらかじめ把握しておくことで、テーマに沿った公募型事業をすばやく紹介。余裕を持って申請準備ができるよう支援したほか、書類作成についてアドバイスした。

もちろん採択されなかった事例もあるが、「見込みのある卵が、どんどん産まれていく」（古仙孝一群馬県産業政策課副主幹）と手応えをつかんでいる。